

## 名古屋大学宇宙地球環境研究所 飛翔体観測推進センター特任助教 公募

1. 公募人数 1名
2. 公募分野 

名古屋大学宇宙地球環境研究所では、研究所がこれまで整備してきた地上観測網に加え、特に航空機・気球・観測ロケット・人工衛星などの飛翔体による新機軸の観測計画を策定・実施するとともに、その遂行に必要な技術開発を推進するために、飛翔体観測推進センターを設置しています。

現在、わが国が主導する大型の地球観測衛星の計画およびその人材育成は転換期にあり、飛翔体観測推進センターとして、将来の飛翔体による地球観測計画の策定・実施に貢献する上で、既存および新しい観測技術について熟知し、国内外での観測計画や研究計画を先導・主導できるような人材を確保することが必要です。また、地球水循環や大気海洋の研究分野に目を向けると、気候変動や地球温暖化に伴う大規模な海洋の変化と蒸発や降水を介した地球水循環の変化、さらに台風や豪雨など社会的インパクトの大きな極端現象の増加など、海洋と大気の相互作用を根幹とする現象の変化が注目されています。これらの現象のより良い理解や予測のために、現象の素過程についての観測による定量的知見を得る研究が必要となっています。特に「大気海洋間のフラックスの高精度推定」は、大気海洋相互作用の素過程の理解のみならず、本研究が推進する融合研究の雲・エアロゾル過程研究においても、水蒸気の供給源という意味で重要であり、これらについて人工衛星をはじめとする飛翔体による観測に基づく研究を大きく推進できる人材が必要です。

そこで本公募では、主に人工衛星などの飛翔体を用い、大気海洋相互作用に関連する物理量の観測・アルゴリズム開発・解析研究を行う人材を求めます。特に既存の大型衛星と小型衛星やドローン等の次世代の観測技術を融合させ、大気海洋間のフラックスの高精度推定に資する研究を行い、さらに宇宙地球環境研究所で進めている融合研究の雲・エアロゾル過程や、陸域海洋圏の生態系研究などと結びつける研究を行う人材を求めます。さらに、これらの研究活動を通して将来の飛翔体による地球観測計画の策定・実施に貢献するとともに、研究集会や講習会などを通して研究者コミュニティに飛翔体観測の重要性や意義を広く普及させ、全国の研究者と協力して当該分野の研究成果創出を先導・推進していく意欲を持った方を求めます。
3. 任期 1年（1年ごとに審査の上、最大2022年3月31日まで更新可能性有。）  
最終雇用年齢は65歳に達した日以降の最初の3月31日まで。
4. 身分・待遇 特任助教  
週38.75時間勤務を基本とした裁量労働制  
月額約40万円（特任助教・年俸制）  
加入保険等：文部科学省共済組合（健康保険、厚生年金）、雇用保険、労災保険
5. 着任時期 2019年4月1日以降早期
6. 応募資格 次の条件を全て満たしていること。  
1) 博士の学位を有しているか、または着任予定時まで取得見込みであること。  
2) 着任予定時に主たる職、或いは大学院生、研究生等の身分を有しないこと。
7. 選考方法 書類審査により選考しますが、必要に応じて面接を行う場合があります。

8. 応募締切 2019年1月11日（金）必着
9. 提出書類 封筒の表に「飛翔体観測推進センター特任助教公募書類在中」と朱書し、以下(1)から(6)までの書類を書留で提出してください。  
(1)履歴書、(2)研究歴（A4で2枚以内）、(3)業績リスト（主要論文3編までのコピー各1部を添付）、(4)研究計画書（A4で4枚以内、研究業務内容に対して、どのように貢献しようと考えているかについても記入すること。（5）着任可能時期、(6) 2名の方からの推薦書、又は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先を記入した書面。（応募書類は原則返却しません。）
10. 送付先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学研究所総務課人事係 担当 加藤
11. 問合せ先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学宇宙地球環境研究所飛翔体観測推進センター  
センター長・教授 高橋 暢宏  
電話：052-789-3492

上記の公募に関連して提出されたすべての個人情報については、選考の目的に限って利用し、選考終了後は、選考を通過した方の情報を除き、全ての個人情報を責任を持って破棄いたします。また、当研究所では、男女共同参画推進に積極的に取り組んでいます。名古屋大学の取組みについては、次のURLをご覧ください。<http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/>